

**今日の焦点****企業連合で札幌市の学校空調177校落札****ナカノヤ、地元埼玉県の公共事業で実績積み上げ**

建築・設備からLPガス販売まで手がけるナカノヤ（本社・埼玉県越谷市）は、小林孝裕代表がPTA活動を通じて学校環境や教員の事情を深く理解し、学校空調の施工受注につなげている。埼玉県内のGHPを含めた公共事業の受注で実績を重ねてきたが、2024年末に同社が代表企業を務めるグループで札幌市の事業を落札した。すべて電気空調だが177校にも及ぶ大規模な案件だ。



小林孝裕代表

「札幌市学校施設冷房設備整備事業」は公共施設の建設・維持管理に民間の力を活用するPFI（プライベート・ファイナンス・イニシアチブ）として計画。同社が公募情報を知ったのは24年の夏、地元のPFI案件を手がけている最中だった。自社工事部の前向きな姿勢を確認した小林代表は、チームづくりに着手。札幌にもネットワークがあるエア・ウォーターしか現地につながりはなかったが、紹介などをつてに現地へ足を運んで説明し「こちらの熱量を感じて参画を了解してくれた事業者もあった」という。エア・ウォーター・ライフソリューションに加え、ナカノヤと学校空調をともに手がけたPFIプレイヤーなど計9社からなる「ナカノヤグループ」を構成し、期日までに企画提案書を提出した。

競合したのは北海道電力を筆頭に大企業で構成するグループで、価格審査で差をつけられたが性能審査で巻き返した。期日内の施工を約束した相手に対し、177校の作業を割り振ることで、早期の設置完了を宣言。集中リモコンの設置など効率的な運用面のアイデアも評価された。6月にモデル校を着工し、他の工事の円滑な遂行につなげる。

ナカノヤは1913年に雑貨小売業として創業して以来、地域のライフラインや暮らしを支えていくことを主眼にLPガス、水道工事、リフォーム、公共分野など新たな事業に挑戦してきた。体育館空調分野（GHP）は、越谷市で25校中12校を受注、吉川市は10校を受注し7校で施工が完了した。

札幌案件の獲得は、学校空調の実績を積み上げてきた成果に加え、小林代表が地元のPTA連合副会長として活動した経験が生きている。さまざま家庭事情を持つ児童らと学校運営の狭間で苦勞する教員を、事業経営者としての社会常識やマネジメント力を生かしてサポート。ともに活動するなかで、教育委員会管轄のなかで転勤も少なくない教員が「どこの学校に行っても迷わず使える設備ありがたい」といった声を聞くなど、運用する教員側の視点も養った。

土木工事のゼネコン企業を経て春日部市役所で下水道の部署に勤務。家業の同社を継いだ後は、率先して資格を取得した。地域になくってはならない存在を目指して社員のレベルアップを図っている。札幌での大型案件を受注したことで、今後は他地域での学校空調を中心としたPFI案件にも積極的に挑戦する方針だ。